

28:15

第十卷
會生學

新約聖書約翰書

價二錢五厘

全



耶穌降生一千八百七十七年

翻譯委員社中
米國聖書會社

新約聖書約翰書

明治十年

日本橫濱上梓

使徒

第一章

わー

なん

ら

よて

成なんぢ

ぢらよつたふるそなんぢと成それらと同心ならめんた

めなり。われらも父おふびその子いほをキリストともたそ

それらとの書をうきあかりてなんぢとれ喜樂成み

使徒ヨハネ第一書のうち正誤

第四章の一二三節および六節なる靈の五字ハ

れいと傍訓すべきを筆工みた。まにあやまれり

檢閱の際におこし己に製本したりーおより今

こゝにそれ誤を正す故に右よいへる靈の五字

みた。まこあるはれいの誤と知るべし

めんといふ神は光なりを告ぐるものなりと云ふなり此をわ
ねてうれしきことなりなんぢらよつたある告なりと云ふ
まゝそれら神ともなりといひて暗をあるものわれらとい
ふことあるはいつちよりして真理なることをあるにても
神のひかりあるを告ぐる光のうちにあるものをわれら
たゞひは同心となるを得ようその子いこそキリストの血を
浴びてはみよりされし潔むるも志罪なりといふことされみ
はうにあざむけるよて真理われらよあるなりと云ふこと
をのつみをいひあらせらるる神を信實する公義あるもの
ゆゑにかなうにわれらのほかにあるものなしとの不義より

わきへて紙きうむ筆——も若罪紙をう——くるあとなし——い
ても神紙誑者シツヤクモとけりなりその道ミチをれうはあるなり——

第二章

その小子コシヤウよをれられうのう紙をんぢうは書カキあく

るいなんぢう紙してけ紙犯ハムはことなりら若めんためあ

りニ——人けみ紙をのせばわれうのためは父チヤのまへは保ホ

護ゴ師ありまあもち義ギなるい正マサをキリスト——うれをわれうの

けみの挽回祭物カウコンノサエモノなりたうよわれうのうめをかうけあまね

く世ヨのうけねなうめをそなくものなり——三——をれうこ——その

誠マコト紙まももをあれはすりてうれ紙識チシとみだうう曉得サト得——

四——われうれ紙若れまといひてそのいす——め紙まももさるる

ものい 謊者なり 真理 そのうちにあるなり 五 心を盡してその道
を成すものい 神はあはるるの愛まことなるその衷はあい
と 完全なる。あはるるよりてそれなるがわれはあはるるがうはみづら
らさるる 六 彼はとるといふものそれの行はしむくあや
むをきなり 七 兄弟よりわれなんぢらとあはるるき 誠をうき
あはるるはあはるる。あはるるもあはるるよりなんぢらのあはるる 舊
誠なりこのあはるるきいなり めい 始はるるなんぢらとあはるるき
あはるるの道をき 八 それどわがなんぢらと書あはるるはあはるる
まはるるきいなり めなり あはるる言はるるはあはるるきいなり
なんぢらとあはるるきいなり 眞實なり。その今はるるきいなり 是はるるきいなり

この光^{ひかり}でれをなり 九 ひのきよなることつひてそれ兄弟^{あなづから}は

にむむものをもつまなほくきよなるなり 十 兄弟^{あなづから}とあいに

るものい光^{ひかり}よりておられはつまはらひるものその衷^{こころ}は

なり 十一 きやうだいと憎^{にく}をいへるきよなる暗^{くら}はあをて

そのゆゑあらはれこれその目^めをくきよなるものさ

るれをなり 十二 小子^{こども}よそれこのあみ紙^しなんぢよかきあ

るハなんぢ主^{ある}の名^なよりてはみ紙^しゆるされたるものなる

十三 父^{ちち}老^ちわれあは書^{あみ}紙^しなんぢよかきあくるものなんぢ

元始^{もとめ}よりなるものとあはするよ。壯^{つやう}者^{もの}よそれあはの賜^{たまひ}とな

んぢよよきあくるものなんぢ悪^{わる}者^{もの}よあはのよき子^こ

よそれおのふとをなんぢうゝかきかゝるもなんぢう父
あはるよする 十五 父老よそれこの婦をばなんぢうゝかき
ふなんぢうゝめよりれものと志れるよよりまゐなり
ふきものよわきおの書となんぢうゝあくるゝハなんぢう
剛健うら神のことはなんぢうゝあくるゝは有てあきもの
一勝るよよりてなり 十五 おの世あはるひまゝは世一あるもの
ばあはるなる人ゆゝこのふばあはるを父ばあはる
の愛そのうちよあるなり 十五 あはるを世一あるもの。まゐる
ち肉體のよく眼目の慈まゝ勢よりあくる 驕傲こゝろみ
な父よりいつるゝあはる世一まゝつゝるものなり 十五 は世

とそに愁^うは逝^やるものにて神のむねをとおしなりとの永^{とこ}
遠^{とほ}くあるなりと 大^{おほ}つ子^こよみまをさなむと 季^{とき}世^よキリス
ト敵^{たき}はるものきこらんとなんぢうづきこしとあるのこ
く今^{いま}もてキリストはてきほるものなりこれよりてい
やとあるもちほ急^{いそ}の世^よなりとそれらにあらむ 元^{もと}われら
はそなむそそれら出^いたるといふもともやうなそれらの属^う
らざるなり。とえわれらのものはあらんよを恒^{とこ}にわきと偕^{とも}
なるを。われらのでされるいを越^こてのものゝあそくハ
それらの属^うなりとざるこゝに彼^{かれ}あはる人^{ひと}にたぬなり 三
ぢうとまて聖^き主^きよりあがく彼^{かれ}そゝわれと一切^{いっさい}のあは

しる 三 まれなんぢうが真理^{まこと}をあきらむるよりてはの書^きは
うきあらしはわづらななんぢらまうては知^しうのまづてのい
つりて真理^{まこと}よりのでさるうてはなれはなれなれはなれ 三
誰^{たれ}うこれ誠^{まこと}者^{もの}いふをいひてキリストとせんものなるは
や父^{ちち}と子^ことをあはむものハまなをちキリストは敵^{てき}はるもの
たを 三 おちよそ子^こはなむものハ父^{ちち}をもとて子^こはなむ
るものハ父^{ちち}はなむもの 三 んぢう始^{はじ}よりきけるものをあ
んぢうの衷^{うち}はなむものハなむものより聞^{きこ}ものなんぢ
らのうちはなむものハ子^ことちうては居^いるものハなれ主^{しゅ}
のわれうは約束^{やくそく}したぬるやうそくまなをちうきりなき

生命いのちあるを 云 どれなんぢうに誘惑誘惑ものよつてそれのよ

と祇なんぢうよきおくれを 云 なんぢうハ主まよりそ

まゝあふその衷うちとまわれまづ名をくを人

わうらうよおまを。その膏あぶらもづての油を祇なんぢうよを

いふ。うら 眞實まことにして虚うつろひ假かりなり。あんぢうあふらのをいふ

うらつね。主しゅよをまづ。 云 小子こしよはね。主しゅよをまづ。 云

その顯現あらはれときよ。それをおそ。ことなくその降臨くだりとき

そのまゝよまづることなり。らんためあり。 云 なんぢうハ主しゅ

のたゞ。きこ。祇あるよりて公義こうぎ祇おこす。ふものくみ

な主しゅのくむところたるを。ま。ある。あり

第三章

なんぢも視よ。されど稱られて神の子たること得
られし、のされどは賜いふをその愛ぞ。世にちては
ほ。うれしきなりてされどあはれざるもの。あはれもの
よ。されど神の子たり。後いふに、いまだあはれざるもの
あり。されど神は肖人こそを。そのわ
れ。その真状はみざるなり。三 おれよ。神はよれ
この望といふもの。その潔からみづから。はき
に。ほみはを。その律法はを。罪はを。あはれ
て。はを。なり。五 われ。そのつみは除。うん。く。れ。主のあ
ら。それ。あはれ。うん。ぢ。の。知。く。あ。は。れ。す。

みはるゝ罪なり。おほよそうれし居ものをつみ紙をくさ
し。おほよそ罪紙をくさしものはいまううれ紙みはるゝ。彼
紙あうさるなり。とさなごよ人よまうさるゝ。この
れ義紙あうさるものい義人あうさるゝ。主の義なるものこ
と。ハ。はみ紙をくさしものい惡魔よりいづ。そはあくまはた
しあより罪紙をくさしなり。神の子のあうさるゝ。ハあくま
の工紙あうさんごうあり。九。おほよそ神よりうさるゝ
るものい罪紙をくさし。そは神の種そのうちあるよある。
うれまうはみ紙をくさし。あうさる。そは神よりて生る
まうあり。十。あれよりて神の子と惡魔の子といあうさるゝ。

よあうちる。おやすそ義賊おあなもはそその兄弟賊あつて
るもののみを神よせいとあうは士まねくのたぐひは
相愛はべきあんぢうのむねよりきくところの命令
なを士カインはなうふあうなうれ。うきいふはあうきもの
よも出ーものまでその弟賊あうせり。なまゆゑこれ賊殺せ
し。おのれのおあなひーやあういあうくあううとの行し
ところあはたしーうきよよる士我きやうだいよ世あんぢ
う紙にくむともあうろくあうなうれ士われう兄弟賊あい
さうよよりきく死をいで生はいきく紙うづう
しきやうだい紙愛せざるものい死のうちよる士あな

よそ兄弟^{まぎらひ}はよくむづかしいをある人^{ひと}をころすものあり。お

もろそ人^{ひと}はあらはものへうきりある生命^{いのち}そのうちよをる

あとあり。此^{こゝ}いなんぢのうきりなり。主^まてそれの

ためよいのちはきてたきなり。おれよりて愛^{あい}といふら

は志^{こころ}をく。それくす兄弟^{まぎらひ}のうめは生^いはるる。世^よの

資財^{しさい}はもきやうだいの窮乏^{きうふ}をみて反^へてめをれら

はとたるものといひで神^{かみ}はあはれるの愛^{あい}そのうちよを

んや。小子^{こご}よそれくあいするは言^{こと}と舌^{した}とて相^{あひ}あひ

るくなく行^{かみ}とまをるをてれべ。おれよりてわ

れく眞理^{まこと}よりいひはる。志^{こころ}を且^{かつ}われらるる主^まのまへ

やんぞ魚——^二われらに心も——われらに張せぬが神もわれ
らにおもひなりもなほ大なるよりまづてのこころ張えを
たまふもなる——^三愛ほるものよ。われらにこころみづこ
責らるるくば神はむづひくも——あるところなる魚——^三
からわれらにまづて求るところのわれよりくその其い
ま——われらにその悦とある張おこす——^三まの
誠はさるるもわれらに神の子いふをキリストの名と信どわれ
のわれらに命ぜ——^二たがひはあひ愛ほることなり——^四
神のいま——われらに神はさるるもわれらに神はさるるもわれらに
とるわれらにその賜——^二とるわれらに靈はさるるもわれらに

らゝ居ゐるまふこゝに紙かみをねる

第四章

あゝさるものよ。まづての靈たまを去はなれ。その

れい神かみよりいづるや否いなとあゝあむべし。おほくの偽いつはりよ。人

トやいで世よにいれ。おほよそいひをキリストの肉體にくたいと

あゝそ臨まゐるあゝ紙かみいひあゝも。靈たまをこゝみよりいづ。

あれよりて神かみのれい紙かみを去はなれ。三。おほよそ耶蘇イエスキリスト

をいひあゝも。靈たまをかみよりいづるよ。あゝ。まゝあゝ

ちキリストは敵たきはるもの。靈たまなり。あゝのこゝの。あゝさよ。まゝなら

んとさるこゝをなんぢ。あゝきゝるこゝを。今いまを。まゝ。世よ

まを。紙かみを。四。紙かみを。まゝ。なんぢ。ハ神かみよりいで。まゝ。こゝに

は勝^{まさ}てゐる。然^{しか}えども。そのなんぢの裏^{うら}はをるもの。世^よのう
ちよきものより大^{おほ}なるよりてなり。五^いこうれをも世^よよき
いでしものあれは。そのいふところも世^よよきいでしもの。
いふべきことよきて。世人^{よめ}のあきまきけを。六^むそれをも神^{かみ}よ
しいて。わ神^{かみ}はるもの。われをもきく神^{かみ}よりいふべき
もの。われをもきく。あれよよきて。真理^{まこと}のれいと迷^{まよ}謬^ごの
靈^{たま}と張^はたるなり。十^じ愛^{あい}するもの。われもたづひはあひあひ
そ愛^{あい}し。あいハ神^{かみ}よりいづれをよか。あふを愛^{あい}するもの。
神^{かみ}よりてうまれま。神^{かみ}はるもの。あひあひ。わ
神^{かみ}はる。神^{かみ}もまなも。愛^{あい}なれをなり。九^く神^{かみ}もそのうみと

まづは獨子紙世ははるを——それ紙——でかれはよくて生
紙えせむ。あゝあいて神のあいわれ——あゝそれたを
神紙あひまゝはあゝ神われ紙あひ——それら
の罪ははるをそは子紙はの——て挽回祭物とせむ。これを
なまら愛なり。あひまゝはあゝかくの——神われと
あい——たを——もまゝ互はあいあひま——い
ど神紙み——ものな——われと——たがひは相あいせを神
れのうちをそりてわれ紙あひまゝ愛紙われのうちに
まゝたうに。われをまゝその靈とめてそれらは賜あれは
よりてわれらのうれはをうれめそれらは居——紙——

十 父さきよそに子に成りて世の救主となせられ
まをよあれをみえり。いまその證に成りあり。ま
あなよそ 耶
蘇がみの子なりと心あきつるものを神にうれよをその
れ神よとる まわれのうめは神のゆえに愛にわれを
まをよそ 信にがみもまをよそ 愛にわれを
まをよそ 神よ 神よ 神よ まをよそ 神よ まをよそ
のあに全備に成りて神にまをよそ 神にまをよそ
くわれ 世はあれをなり まをよそ 神にまをよそ
まをよそ 愛にまをよそ 神にまをよそ 神にまをよそ
まをよそ 神にまをよそ 神にまをよそ 神にまをよそ

あいさつにわれまづわれも愛をうまよれを
に神はわれと一つそのまやうだにわれもむものいふ
れ誠者あり。そこでみるやあられ兄弟はわれと
ご見ざる神はわれとあれせんや三神はわれもものも亦
それきやうにいれも愛をうまよれ。このいふはわれもものも
より授られたる

第五章

あはれを耶穌とキリストと信するものを神はよきそ

うまれしなり。あはれをうむものを愛するものいふは
の生れしもの愛もわれなり二神はわれも
そそ誠をまよふをわれよりそわれもかみの兒女をわ

いさるこしる 三 神のいすしめ張ちもるをこれとあひち神

をあいさるあそ。それ誠をかこくは 四 おほずそ神よりそ

てうまうそものいよは勝たれそ張しそ世よかこむるそ

のいそれそが信ちを 五 うれのよく世よかどん 耶穌はかみ

の子とあんどるものよけそや 六 神の子はみけそ血をそ

て臨みそあそいさそキリストあり。たそ水のもちそけみけそ

まそちを兼てありし張あそそけハ 靈ちを。けいも眞實たれそ

ありハ 證ちなれそけそ三 七 ちありち 靈と水と血とあけみらの

そけの歸ちるそくそそ一 八 ちありそけそ人のおりし張

うくそそけハ 神のありしそさそよ 九 大なる聲し。神のありし

是^{これ}なり。きなもちその子^このうへはなせ。證^{しるし}なり。かみれ
子^こは老人^{らうじん}はるものもその表^{うへ}はこれあか^{あか}なり。神^{かみ}は老人^{らうじん}せ
ざるものもかみは誠^{まこと}者^{もの}なり。そは神^{かみ}のそは子のうへはあか
しめる證^{しるし}と老人^{らうじん}せざるなり。かみは永遠^{えいゑん}いのちをもて
われはまたまふ。あは生^{なま}にまゐるもの子^こはあはこれその
あはなり。神^{かみ}の子^こはこれものもいはれはこれその子^こは
またざるものも生^{なま}はこれなり。われかみの子^こは名^なは老人^{らうじん}ま
るなちうはあはれうのあはとをのきあはるいかなんぢうよか
きりなき生^{なま}あるらうとをきくせん。うへはなり。あはれ
れは神^{かみ}の旨^{めい}はのなり。あはれを求^{もと}むわれうあはれに聽^{きこ}ん。これ

われらわれはむらひをあつて信ぜるともなりまふて
そのゆゑとむるとある彼かれのきくことと一はわふとむ
るにあらずわれは得ることもあらずまゝ老人いにしへその
きやうぐいの死はいつくざるつみをうけ見みえのり
て死はいつくざる罪つみをうけぬものは生なまあゝあべー死は
いつく罪つみありわれらうめは祈いのち求といふはまゝあての
不義ふぎをほみたるがれど死はいつくざるつみありまゝあて
神かみはよきてうめをうめとて罪つみをうめとてあてにわれ
らも一は神かみよきてうめをうめとてあてにみづう守まもられあ
しきものあるは觸ふれとてあてにみづう守まもられ神かみよつき。

舉世ハ^{まことの}一キモノノ^一服^くハ^一紙^しワレ^一ハ^一神^{かみ}ノ子^こ
モ^一ミ^一キ^一ミ^一ワレ^一ハ^一眞理者^{まこともの}越^こス^一ノ^一智^ち慧^けヲ^一ミ^一レ^一ハ^一賜^{たまは}
ヲ^一ミ^一レ^一ハ^一眞理者^{まこともの}ハ^一あり。モ^一ミ^一キ^一ミ^一ノ^一子^こハ^一心^{こころ}ヲ^一キ^一リ^一ス^一
ハ^一あり。レ^一モ^一ミ^一キ^一ミ^一ハ^一眞神^{まことのかみ}ハ^一永^{とこ}生^{なま}ハ^一あり。ミ^一ミ^一キ^一ミ^一ハ^一な^一
ミ^一ミ^一キ^一ミ^一ハ^一偶^{ぐう}像^{ざう}ハ^一ヤ^一ミ^一キ^一ミ^一ハ^一ア^一ー^一メ^一ニ

使徒ヨハネ第二書

長老えびとこうむれるクリアとそは子とあふは

くる。それまうと。なんぢはあは第われのまうは

ふよそ真理紙志れるまうをまうみふなんぢは愛せり

なんぢら紙愛はるまうをまうの衷ありはねまうな

れざる真理よりなる。なんぢらハ實と愛よりなる

神まうち父あふびの子いんをキリストより恩寵と

慈悲と平康と紙くはる。それあんぢらの子とあふち

わうけとあふは父の命のおう。真理はまうひてあ

ゆむの。あふ紙見てはふまうらう。クリアよわ

れ今^{いま}なんぢに、むたがひに愛^{あい}はなす。おはあつて
 きいます。めと、おとろく、あつて、即^{すなはち}ち、め、よ、を、われ、
 有^あ、あ、れ、の、なり。六 われ、われ、の、誠^{まこと}、あ、つて、ひ、て、あ、
 づむ、も、あ、れ、を、な、も、愛^{あい}なり。あ、ん、ぢ、に、め、より、き、
 づ、く、愛^{あい}、あ、あ、む、い、あ、れ、を、あ、ち、い、ま、め、なり。そ、の、惑^{まど}
 う、さ、も、あ、の、の、お、ほ、く、世^よ、い、で、耶^い穌^そキリス^との、肉^く體^{たい}、と、なり、
 て、き、づ、い、た、ま、へ、る、う、ち、に、あ、つて、この、ま、あ、ひ、う、さ、
 そ、あ、の、い、ま、あ、も、ち、キリス^との、敵^{てき}な、れ、を、あ、り、な、ん、ぢ、に、
 れ、ら、は、う、ち、に、ま、い、と、ろ、う、れ、を、む、さ、く、せ、に、成^な全^{ぜん}む、く、い、
 ぢ、え、ん、の、う、ち、に、あ、つて、う、ち、に、あ、つて、
 慎^{しん}重^{じゆう}、
 九 お、あ、つて、キリス^との、教^{きよう}、

をくばして人々みちびくものを神をそへてキリストの御
「はちるものハ父あはび子とせしむる人々」のち
はちるものハ父あはび子とせしむる人々
ちかれうねうやほうれとつふくくなくれ
いふものも共うその悪行よりみざるなり
あれども紙と墨と紙もてなんぢうきあくるを欲むわ
まのうろくびの充滿せんうねうなんぢうきあくるを欲むわ
うくうううんあはび望むなんぢの姉妹もあはちえ
びをううむざるもの兒女なんぢう安をううアーメン

使徒ヨハネ第三書

長老あいにあるガヨスあふちをうぐまうぐり愛ほふやある
れもの書紙おくるニあいにあるものよあんど霊魂のご
らんなるぐくなんちを愛せのくくはきて隆盛をま
康強ならんく紙われぬ
兄弟きたりてなんちの眞
理をたもてるくはあふちなんちの眞理をわめくを
あふちをうぐれはわれを愛するやろく
五 あいにあるものよあんど賓旅するきやうだいすまを
へておこたりて忠信紙をておとなへり
六 うれを教會のま

つゝあつてなんらの愛とあか—せえ。なんちも—神さうふ
ふ。なうれとの行路はたすけをそのおふあふととも善
ま。このまうハ主の名に—めさ。以て、異邦人よりなまはも
うけされをなり。あはゆゑなまれうのくはことき人な
はく。なうれともうれうともにも真理さうういふと
のとなうんうめなり。わきさきま書はけうういふとあ
まうれらの中ま。あう長たうんともこのむテラテレス
まれをうけさうき。まれめうやうをその行るうとまはし
らう。記あうん。なれも惡言はもてみだりま。なれを論
う。あはれはめて足くせん。みづう兄弟はうけはさうと

けんとするものばもさういふて教會と志すをけり 十一 愛

するものよあくしなれまふも善くあくせん

神おとあふものも神よりいで惡をおふものいひまふ

神ばみざるあり 十二 テメテリヲをひとくと真理とよあう

せらるるわくも證をとりまのあうの眞實あるとあ

ちあれ 十三 我あをおほくのこゝをなんぢ書かくらんと

はまとも筆と墨とをもていつきかふるはあはまは 十四 速はな

んぢばもて口をむうくうらんくは望望するくはあ

ぢやはかれおほくの友なんぢの安んずる請なんぢこれ

こうはりて友たちおのくやまきを問へ

使ま

徒と

コ

ハ

ネ

第だい

一いち

二に

三さん

書しよ

終しゆう



